

松明と共に燃え上がる上ノ国の夏

8月14日、本町の夏を彩るイベント『エゾ地の火まつり』が上ノ国小学校グラウンドにて開催され、お盆の帰省時期とも相まって、多くの人で賑わいました。

会場では、町内外からの多彩な出店が立ち並び、昼の部の目玉『真夏のクイズまつり the Final』が始まり、クイズやビンゴなどの様々なミニゲームが行われ、豪華景品を目当てに、子どもから大人までが真剣にゲームを楽しんでいました。また、町内登山愛好家によつて設けられた親子の休憩スペース『山岳村』では、子ども達がトンネルアスレチックやボールプールなどのアスレチックを体験、昨午を大幅に上回る賑わいでした。夜の部では、今年のYOSA K OIソーラン祭りでもセミファイナルに出場した北海道大学『縁』の演舞が披露されたほか、龍炎太鼓の迫力ある演奏とともに、巨大松明が赤々と燃え盛りました。最後は、火まつりを締めくくる花火大会『天の川ドラゴンファンタジー』が夜空を彩り、涼しげな夜風が余韻を残して、上ノ国の夏のイベントは幕を閉じました。



宮越の道端に、不思議な光景

8月のお盆時期に、宮越地区の町道において、とあるイメーজキャラクターに酷似した生き物が大量に出現しました。

これは金谷秋男さん(字宮越)が、お盆時期に帰省する孫に喜んでからおうと、道端に育てた観葉植物のコキア(ほうき草)に目玉と口をデコレーションしたものです。金谷さんは、『最初に育ったほうき草見たとき、こういうキャラクターをテレビで見たことあるな』と思い、目と口をつけてみた。そして、孫も地域の方々からも好評で、喜んでもらえたようで嬉しい』と話していました。

宮越地区の中の小さな出来事ではありますが、子どもや通る方々を見守るキャラクターの出現は、地域全体を和ませている様子でした。



農作物の出荷が好調

今夏、本町農業では、さやえんどうやジャガイモ、ブロッコリーなどの品目において、順調な生育が続いています。

今年は本州で全体的に農作物の生育がよくなかったことから市場価格が高騰しており、本町では雨が少なく干ばつ気味だったものの、さやえんどうやジャガイモ、ブロッコリーは生産者の適切な管理もあり、順調に生育したとのこと。

町内で唯一ブロッコリー栽培を営んでいる森啓介さん(字中須田)にお話を伺ったところ、『今年は雨が少なかったが、全体的に安定した気候で生育が進みました。』とのこと、今後もこの調子で豊作が続くことが期待されます。



函館のボートレースで3連覇

7月28日、第11回函館ペリポート競漕(実行委主催)が函館港若松南ふ頭で開催され、汐吹地区の婦人を中心に構成される「汐吹レディース」が3連覇を達成しました。

本レースは、江戸時代に函館へ来航したペリー提督の艦に港から役人8人が手漕ぎ船で横付けした歴史にちなみ、毎年開催されているものです。

過去最多と並ぶ60チームが出場した今レースにおいて、トーナメント形式で行われ、上ノ国漁協女性部チーム「汐吹レディース」が優勝しました。

また、本町消防署を含む3消防署合同チーム「ザ・レスキュー」も昨年の雪辱を果たし、2年ぶり3回目の優勝を飾りました。両チームの監督を務めた上ノ国消防署長の仲澤嘉彦さんは「勝因はチームワーク。とてもうれしい」と話していました。

